

日本語における名詞修飾用法の色彩語の語順について：
文学作品とその日本語訳、英訳、独訳を利用して

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部 公開日: 2017-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 城岡, 啓二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009980

日本語における名詞修飾用法の色彩語の語順について —文学作品とその日本語訳、英訳、独訳を利用して—

城 岡 啓 二

0. 語順の調査データとしての文学作品とその翻訳

本稿は、名詞修飾成分のひとつが色彩語の場合を中心に複数の名詞修飾成分の語順の傾向を考察したものである。語順の傾向を考えるにあたって、文学作品と翻訳データを利用した。文学作品の中からデータを探したのは、日常使う口語では、必ずしも複数の名詞修飾成分が多種多様に使われていないからだ。「きのう買った（白いスカーフ）」や「静岡にある（大きな家具工場）」のような、動詞を使った名詞修飾節が先行するものは、動作を表したり、状態を表したりするが、日常生活でもよく使われている。また、「[[名詞]の]」の形式の[場所]の名詞修飾成分も複数の名詞修飾成分の先頭に置かれることが多く、「静岡の梅の名所」や「静岡の美味しいお店」のように使い、日常、頻繁に利用していると思われるが、名詞修飾成分として形容詞や形容動詞や連体詞が複数使われるようなものは、生活の中でそれほど使われていない。文学作品によってはそれなりに使われていて、人物や動物やモノや景色についての記述で、情報を盛り込みながら簡潔な表現を求めると、複数の名詞修飾成分が同一の対象に対して使われることになるようである。目や髪など、身体の部分の記述、衣類の記述、モノや動物の記述などに「黒い大きな目」、「見覚えのない派手なドレス」、「柔らかな白いかたまり」などが使われることになる。

文学作品を用例採集に利用するだけでなく、日本語で書かれた小説の英訳や独訳、また、英語ベストセラー小説の日本語訳と独訳も言語データとして利用した。翻訳データの利用に関して述べておくが、翻訳は、元の言語の影響を受けるものなので、言語データとしてやや不自然なところがあるのが当然だろう。しかし、信頼性は低くても、それぞれの言語の語順の強い傾向や規則性がどの程度のものなのかを示してくれる実験データのようなものと考えれば、翻訳は興味深い言語データを提供してくれる。現代の翻訳では、オリジナルの作品

への忠実性が期待されているので、とくに問題がなければ、各章の順番はもとより個々の章の内容も忠実に再現することが求められている。文の内部の要素の語順についても可能なら原語の語順を維持するはずであるが、名詞修飾用法の色彩語を中心に調べてみると、外国語から日本語と日本語から外国語の両方向で語順の入れ替えが起きる。それぞれの言語の名詞修飾成分内の語順の規則や傾向との不整合が理由として想定でき、語順入れ替えを引き起こす言わば実験データとして翻訳データを利用することが可能である。なお、外国語として英語やドイツ語を利用したのは、本稿の書き手がいちおう理解できる外国語という以上に深い理由はないが、色彩語の基本語順が被修飾名詞寄りに定まっている英語やドイツ語は¹、日本語への翻訳の際に語順入れ替えが起きる場合が観察可能であるし、英語からドイツ語への翻訳で語順入れ替えが起きないことも確認できるなど、日本語と対比するには適していたと思われる。

近年、電子書籍版の英語のベストセラー小説²が容易に入手可能になっており、ベストセラー小説はシリーズ化して短期間にかなりの量が書かれ、比較的大量の言語データが利用できるという利点がある。ベストセラー小説なら世界の多くの言語に翻訳され、日本語やドイツ語にも翻訳される場合が多く、翻訳データも容易に入手可能である³。また、電子書籍版であれば、用例を検索することができるので、一個人が手作業でデータを収集するには好都合である。日本の小説では村上春樹氏のものなどを調査対象にしたが、1980年頃から現在までのあいだに比較的多くの小説を発表していて、その多くが外国語に翻訳され、現在でも入手可能である。最近では日本語作品もかなり電子書籍化されていて、細

¹ 英語の名詞修飾成分の語順については、閻谷・田中 (2013) が諸説を紹介し、まとめている。岸本・菊地 (2008) にも解説がある。ドイツ語については、リファレンス・グラマーとして通っている Dudenredaktion の現行の 8 版の文法 (2009 : 342-343) でも名詞修飾用法の複数の形容詞の語順について詳しくは扱われていないが、[数量形容詞] [時間・空間の関係形容詞] [評価形容詞 (Qualifizierende Adjektive)] [素材の関係形容詞] [出身・由来や領域を示す関係形容詞] の語順になると簡単に説明している。この枠組みでは、色彩形容詞はその他の形容詞といっしょに [評価形容詞] とされており、色彩形容詞の後置傾向は記述していないことになる。また、[評価形容詞] が複数使われる場合の色彩形容詞との語順についても説明できていない。Stang (2014 : 13-14) は、ドイツ語のコマの有無の解説中で名詞修飾用法の複数の形容詞のあいだにコマを使わないのは、後続の形容詞と被修飾名詞が一つの総合概念を形成する場合だと説明しているが、[色彩]、[素材]、[所属] (Zugehörigkeit)、[由来・出身] を表す場合が該当すると述べており、間接的に [色彩] がその他の形容詞に後続することを述べている。

² アメリカの Meg Cabot 氏やイギリスの Sophie Kinsella 氏などのものをとくに利用させてもらっている。Wikipedia によると、Meg Cabot 氏は 21 世紀だけですでに 50 冊以上の本を出版している。

³ ベストセラー小説の短所は、絶版が早いことである。「世界の中心で、愛をさけぶ」(片山恭一、2001) は、英訳もドイツ語訳も出版されたベストセラーだったが、どちらもすでに絶版である。

かく章分けもされていて⁴、翻訳の該当箇所の調査にも向いている。

1. 日本語の名詞修飾用法の色彩語の語順の翻訳での扱われ方

日本語の色彩形容詞（白い、黒い、赤い、青い、黄色い、茶色い、など）や修飾語としての色彩名詞（白の、黒の、赤の、青の、紫の、緑の、茶色の、黄色の、灰色の、ピンクの、オレンジの、ブロンドの、など）は、被修飾名詞と名詞修飾成分内で分離可能で、他に名詞を修飾する語があるとき、必ずしも被修飾名詞の直前に置かれなくても構わない。英語やドイツ語では基本的に色彩形容詞は多くの形容詞よりも後ろに置かれるので、日本語の小説の翻訳では、色彩語が他の名詞修飾成分に先行している例では、(1) から (4) にあるように、例外なく⁵、英訳や独訳で語順入れ替えが起きている。被修飾名詞にもっと近接して使われる名詞修飾成分がなければ、英語やドイツ語の色彩語は名詞の直前に置かれる規則性があると言える。日本語の作品では、(5) のように、色彩語を後続させた例もあり、この場合は、英訳、独訳とも日本語の語順を維持している。なお、調査対象の文学作品の翻訳書の題名などの書誌情報は割愛したが、Wikipediaなどで容易に調査可能である。

- 1a. 白い①⁶ 小さな②玉 …………… 「猫の客」(平出隆、2001⁷)
1b. the small② white① ball …………… 英訳：Eric Selland
1c. den kleinen② weißen① Ball …………… 独訳：Ursula Gräfe
- 2a. 白い① 大きな②犬 …………… 「1973年のピンボール」(村上春樹、1980)
2b. a big② white① dog …………… 英訳：Alfred Birnbaum
2c. a big② white① dog …………… 英訳：Ted Goossen
2d. ein großer② weißer① Hund …………… 独訳：Ursula Gräfe

⁴ 章分けをしなかったり、少なかったり、数字を使わない章分けなどをする作家もいるが、電子書籍版が入手可能であっても、翻訳の調査にはあまり向いていないだろう。

⁵ ここでは例外なくだが、調査データのすべてでというわけではない。

⁶ オリジナルと翻訳作品の語順の違いを示すために、名詞修飾成分のあとに①や②を付けて、語順の異同を示した。日本語にはない冠詞については、対比する必要もないので、番号付けから除外した。また、分ち書きをしない日本語文では、アンダーラインがくっついてしまうので、元の作品にはない半角のスペースを入れた。

⁷ 本稿では文学作品からの用例を多く用いているが、雑誌の初出年ではなく、書籍としての初出年を示すことにする。

- 3a. 黒い① 大きな②鳥 …………… 「風の歌を聴け」(村上春樹、1979)
 3b. a big②, black① bird …………… 英訳: Alfred Birnbaum
 3c. a big② black① bird …………… 英訳: Ted Goossen
 3d. ein großer② schwarzer① Vogel …………… 独訳: Ursula Gräfe
- 4a. 銀色の① 小さな②電話 …………… 「アフターダーク」(村上春樹、2004)
 4b. the little② silver① telephone …………… 英訳: Jay Rubin
 4c. das kleine② silberfarbene① Telefon …………… 独訳: Ursula Gräfe
- 5a. その⁸小さな① 銀色の②携帯電話 …… 「アフターダーク」(村上春樹、2004)
 5b. the small① silver② phone …………… 英訳: Jay Rubin
 5c. den kleinen① silberfarbenen② Apparat …………… 独訳: Ursula Gräfe

(2a) の「白い大きな犬」や (3a) 「黒い大きな鳥」にしても、この語順でなければならないわけではなく、「大きな白い犬」でも「大きな黒い鳥」でも不適切でまねな日本語の言い方というわけではない。(4a) と (5a) では、同じ著者が電話について「銀色の小さな～」と言ったり、「小さな銀色の～」といったりしている。英語やドイツ語への翻訳では (4b、4c、5b、5c)、そのような語順の違いは反映されず、[大小] 先行、[色彩] 後続の規則的な語順に統一されている。2章と3章で詳しく検討するが、名詞修飾成分の長短配列傾向も日本語には存在するが、色彩語の場合は多少短くても (1) から (4) の例では色彩語が先行している。色彩語に他の名詞修飾成分に対する弱い先行傾向があるためと考えられる⁹。日本語の色彩語の語順は、自由度が高いのも事実で、実は、「猫の客」の中でも「白い小さな玉」だけでなく、「小さな白い玉」(15章) も使われている。英訳者や独訳者は、語順の違いを無視することもできなかったのか、(1b) や (1c) をそのまま使わず、「小さな」を削除したり (the white ball)、さらに、「玉」をピンポンボールに変えて、「白いピンポンボール」のように訳したりしている (der weiße Tischtennisball)。

この章のまとめとして、次の2点を確認しておきたい。

⁸ 日本語記述文法研究会 (2009: 175) は、「指示表現による名詞修飾成分は、ほかの名詞修飾成分よりも前に置かれることが多い」としている。

⁹ シラコバト (白小鳩) やクロオオアリ (黒大蟻) という動物名は、色彩語を [大小] に先行させることができる日本語の語順に従って造語されているが、英語やドイツ語には存在しない造語である。

- ① 日本語の色彩語は名詞修飾成分の中で自由に移動する傾向がある。
- ② 英語やドイツ語は色彩語を他の名詞修飾成分に後続させる規則性があるが¹⁰、日本語は色彩語を先行させる弱い傾向が存在している。

2. 日本語の色彩語の自由移動傾向と弱い先行傾向が強まる条件

英語やドイツ語では[色彩]を[大小]の名詞修飾成分に後続させるが、日本語の色彩語は、被修飾名詞から離れたり、近接したり、語順は自由で任意なのだろうか。日本語の色彩語が自由で任意の語順をとるなら、外国語からの翻訳では外国語のままの語順が使われるはずである。現実には、3章で実際の翻訳例で確認するが、語順入れ替えが起きることも少なくない。翻訳データを観察すると、特定の条件で、語順入れ替えが起きやすいことに気付くだろう。それは、日本語の長短配列¹¹や複雑単純配列という傾向が関係していると思われる。日本語の名詞修飾成分の語順を左右するこの傾向は、先行研究でも指摘され、小池(2001:49-58)は「表現構造の複雑なものが前、単純なものが後という一般則」があると述べ、「メニューが豊富で安い店」が「安くてメニューが豊富な店」と並んで用いられる点をその観点から論じている。閨谷・田中(2013:226-227)も小池(2001)に依拠して「語の複雑さ」を論じていて、日英の差について述べるが、「語として長い(=複雑である)」としており、長さや複雑さをとくに区別していない。日本語記述文法研究会編(2009:179-180)は、「世界的にもきわめて珍しい この鳥は、この島にしかない」で、この語順の方が「この」を先頭に置く基本語順(注8参照)よりも自然としていて、「長い名詞修飾成分は、基本語順で決まる位置よりも前の方に置かれる傾向がある」と説明している。

さて、色彩関係の名詞修飾成分が長くなる場合、構成が複雑になる場合を分類してみると、次のようにまとめられるだろう。長さは拍数で示してある。複

¹⁰ 閨谷・田中(2013:218)に、英語の語順について、[性状][大小][新旧][色][材料・所属]の語順の傾向を含めて、いろいろな説が紹介されている。ドイツ語ではDudenの現行の文法でいまだに色彩語の語順を他の一般の評価形容詞から分離していない(注1参照)。両言語とも、少なくとも[大小][色彩]に関して、色彩語後置という明確な強い傾向(規則性)をもっていると言えるだろう。

¹¹ これは直観的にもそう感じられる傾向で、大学生に自然な語順を判断させ、理由を求めると、すぐに出て来る意見でもある(とはいえ、逆の短長配列についても理由としてあげる少数派も出るようだ)。

雑さの度合いを区別する枠組みは、構想できていないが、自立語と付属語を数えて、3語以上のもの、自立語を数えて、1語でなく、2語以上からなるような名詞述語成分は、複雑な構成であることは仮定しておけるだろう。

- ① 「～色の」：緑色の（6拍）、紫色の（7拍）、黄緑色の（7拍）
- ② 「～色の」の形式で、外来語から作った色彩語：ピンク色の（6拍）、オレンジ色の（7拍）、クリーム色の（7拍）、カaramel色の（7拍）
- ③ 「～の」の形式で、長めの外来語から作った色彩語：オフホワイトの（6拍）、スカイブルーの（7拍）、ネイビーブルーの（8拍）、パステルピンクの（8拍）
- ④ 複数の色彩語を並列につないだ色彩語（複数の色を表すのに日本語では色彩形容詞が使えないので、色彩名詞を並列接続¹²する必要がある）：赤と白の（6拍）、赤と黄色の（7拍）、黄色と紫の（9拍）、ブルーとグリーン（9拍）、黄緑色と紫色の（14拍）
- ⑤ 色彩形容詞を修飾する副詞成分が先行し、全体として名詞修飾成分が長くなるもの：かすかに白い（7拍）、うっすらと白い（8拍）、ぼんやりと白い（8拍）、くっきりと白い（8拍）、点々と黒い（8拍）
- ⑥ 色彩名詞を修飾する名詞修飾成分が先行し、全体として名詞修飾成分が長くなるもの：ほのかな青の（7拍）、薄い黄色の（7拍）、濃い紫色の（9拍）、かすかな緑色の（10拍）、うっすらと紫色の（12拍）、きれいなエメラルドブルーの（13拍）、とてもきれいなエメラルドブルーの（16拍）
- ⑦ 色彩語を含む名詞修飾節：肌の白い（6拍）、顔の白い（6拍）、色の白い（6拍）、屋根が真っ赤な（7拍）、砂の色をした（8拍）¹³、花卉が紫色の（11拍）

上の①から③は、長い名詞修飾成分だが、④から⑦は長いだけでなく、構成が複雑な名詞修飾成分と言えそうだ。④は、色彩名詞を使った並列接続である点に注意が必要だ。日本語では、色彩形容詞の連用形接続は、厳密には並列接続ではないのだろう。同種の色彩形容詞をつないで「赤く（て）白い」にしても

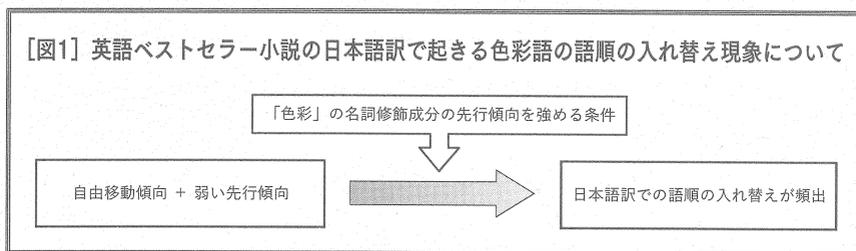
¹² 等位接続や等位接続詞という術語が使われる場合もあるが、本稿では、並列接続や並列の接続詞という言い方をしている。

¹³ 「～色をした」は頻繁に出て来る言い方ではないので、日本語訳でこれを使った場合に名詞修飾成分の先頭に置かれるかどうか、あるいは、外国語訳での語順入れ替えが起きるかどうかなど、確認できなかった。

2色を意味することができない。2色を意味するには、色彩名詞の方を使って「赤と白の」する必要がある¹⁴。英語では、色彩形容詞をandでつなげばよく、a red-and-white striped apron (Sophie Kinsella : *The Undomestic Goddess*, 2006) のようになる。日本語訳は「赤と白の」を使い、「赤と白のチェックのエプロン」¹⁵ (佐竹史子訳) になり、色彩形容詞ではこの種の表現は作れない。

ところで、日本語の色彩語の長さだが、短めの色彩形容詞だったり、長めの外来語から「名詞+ノ」の形式で作られる色彩語だったり、一定していないし、短いものと長いものの差はきわめて大きい。基本色彩形容詞の「白い」、「黒い」、「赤い」、「青い」は、3拍で短い。が、「紫色の」なら7拍もあり、2倍以上の長さになってしまう。外来語の色名を使う場合も「オレンジ色の」や「クリーム色の」は7拍である。また、外来語の色名が使われ、「ネイビーブルーの」のような名詞修飾成分を使う場合も、全体で8拍もあり、かなり長くなる。

次章では、ここで確認した修飾用法の色彩語が他の名詞修飾成分に先行しやすいかどうかを英語のベストセラー小説の日本語訳で調べ、対比目的でドイツ語訳も検討することにしよう。日本語訳での語順の入れ替えは、[図1]のモデルにしたがって、①から⑦の色彩語が使われたときに起こりやすくなると予想できる。



3. 最近の英語のベストセラー小説の日本語訳とドイツ語訳の調査

英語のベストセラー小説は21世紀¹⁶に書かれたもので、若い女性やセレブの

¹⁴ 他の方法としては、複合語を使い「紅白（こうはく）の」や「赤白（あかしろ）の」のように使うことであるが、「紅白の」のような言い方は語彙的に決まっているようですべての色彩語の組み合わせにあるわけではなく、基本的な言い方は「赤と白の」の方だろう。

¹⁵ stripedを「チェック」としたのは厳密には不正確な訳だろう。

¹⁶ シリーズものの一部だけを調査対象外にはしたくなかったので、20世紀最終年に出版された *Shadowland* (Meg Cabot, 2000) も含めた。

女性が主人公でファッション関係の記述の多いものを調査対象にした¹⁷。ファッション関係の記述に色彩語やブランド名やその他の性状の名詞修飾成分が多く使われることが分かっていたからだ。日本語訳とドイツ語訳も、あれば、調査対象とした。21世紀の翻訳ということになるので、現代日本語や現代ドイツ語の傾向を反映していると言えるだろう。2章で想定した長い、構成が複雑な「色彩」の名詞修飾成分は、英語から日本語へ変換する過程で語順入れ替えが起きやすく、英語からドイツ語では語順は入れ替えが起こらないと予想できる。一方、短く、構成が単純な「色彩」の名詞修飾成分の場合は、英語の語順通りに訳出される場合が多くなるはずである。また、英語やドイツ語では、「色彩」の名詞修飾成分の長さや構成の複雑さは、他の名詞修飾成分との語順を決定するうえで無関係であることが実際の用例とその翻訳で確認できるだろう。

3.1 構成が単純な長い色彩語が名詞修飾成分の場合

英語の小説の日本語訳では、7拍の「クリーム色の」が語順を入れ替えて、先行する場合が目についたので、「クリーム色」の用例を集めてみた。英語では、cream(-colored)、creamy、ivoryが対応していた。「クリーム色」は「白」に近い色彩で、これに黄色みが加わったものであるが、近い色彩の「白い」(3拍)との語順の違いも出て来るようであれば同時に見ておきたい。

- 6a. the big① cream② sofa …………… *Remember Me?* (Sophie Kinsella, 2008)
 6b. das große①,¹⁸ cremefarbene② Sofa …………… 独訳: Jörn Ingwersen
 6c. クリーム色の② 大きな①ソファ …………… 日本語訳: 佐竹史子
 7a. a little① ivory② card …………… *Jinx* (Meg Cabot, 2007)

¹⁷ ヤングアダルト向け小説が多くなるようだ。

¹⁸ ドイツ語の用例で色彩形容詞の前にコンマが使われる例は多数あったが、色彩形容詞の直前にコンマは不要という説明をStang (2014: 14-15) はしている。少なくとも文学作品の中のドイツ語のコンマの使い方とはことなっているようだ。また、名詞修飾成分内のコンマは並列接続詞のundと同等という説明がドイツ語では従来されてきていて、Stang (2014: 13-14) にもあるが、現代ドイツ語では名詞修飾成分内ではundはほとんど使われておらず、コンマとundが同等という説明では説得力がないであろう。英語からドイツ語への翻訳でもコンマの使い方は本稿の例文の中でもかなり違っていて、名詞修飾成分内のコンマはドイツ語も英語も不明な点が多いようである。日本語の読点も同様で、森田 (1994: 33) は、現代小説から用例を採集した際に、連接された2形容詞のあいだに読点があるものは除外しているが、理由を「読点の使用は個人差が大きく、読点のない場合とほとんど変わらないものもあれば、読点によって、文の流れが相当に異なってくるものもある」としている。

- 7b. ein cremefarbenes② Platzkärtchen¹⁹ …………… 独訳：Katarina Ganslandt
 7c. クリーム色の② 小さい①カード …………… 日本語訳：代田亜香子

8a. the bloody① cream② sofa
 …………… *Kennen Wir Uns Nicht?* (Sophie Kinsella, 2008)

8b. das verdammte①, cremefarbene Sofa …………… 独訳：Jörn Ingwersen

8c. クリーム色の② 豪華な①ソファ …………… 日本語訳：佐竹史子

9a. the big① cream② sofa … *Kennen Wir Uns Nicht?* (Sophie Kinsella, 2008)

9b. das große①, cremefarbene② Sofa …………… 独訳：Jörn Ingwersen

9c. クリーム色の② 大きな①ソファ …………… 日本語訳：佐竹史子

10a. the large① creamy② envelope
 …………… *Can You Keep a Secret?* (Sophie Kinsella, 2003)

10b. den großen①, cremefarbenen② Umschlag …………… 独訳：Isabel Bogdan

10c. クリーム色の② ふ厚い①封筒 …………… 日本語訳：佐竹史子

さて、これまでは、英語でcream-coloredなどが被修飾名詞に近い位置を取るものを見てきたが、次の(11a)では、名詞の修飾語としてfull-lengthとsatinが使われていて、色彩形容詞が先頭に使われている。日本語訳は、英語と同じ語順で訳されているが、full-lengthを「地面まで届く」と8拍の名詞修飾節で訳しているので、名詞修飾節の先行傾向や長短配列傾向から判断すると、「地面まで届く、クリーム色のサテンのロングドレス」という訳も自然な日本語だったろう。full-lengthはgownに含まれる特徴なので、なくてもよい修飾語で、独訳ではgownやevening dressに相当するAbendkleidを使い、full-lengthを訳していない。

11a. a cream-colored① full-length② satin③ gown
 …………… *Queen of Babble* (Meg Cabot, 2006)

11b. ein cremefarbenes① Satin-Abendkleid (③+被修飾名詞)
 …………… ドイツ語訳：Margarethe van Pée

11c. クリーム色の①、地面まで届く② サテンの③ロングドレス
 …………… 日本語訳：松本裕

¹⁹ ドイツ語では、縮小語尾の-chenをPlatzkarteに付けて「小さな」の意味を出している。

英語では、形容詞ではなく、[素材] も含めて名詞を使った名詞修飾成分（「名詞性修飾語」と呼ぶことにする）は名詞に近い位置をとるので、名詞の full-length や [素材] の satin が被修飾名詞に近接している語順は規則通りの語順である。現代ドイツ語では、[素材] は、前置詞を使い後位修飾成分になることもあるが、Satin-Abendkleid のように [素材] を先頭にした複合名詞を作ることが多いようである²⁰。[素材] は、日本語では必ずしも被修飾名詞の直前に置かれるわけではないが、被修飾名詞に対して弱い近接配置傾向をもっているようなので²¹、「クリーム色の」の方がかなり長い名詞修飾成分で、色彩語が弱い先行傾向を持つことも考え合わせれば、「クリーム色のサテンのドレス」は、これでじっくりくる語順でだと思われる。下に Google の検索結果をあげるが²²、語順の差がヒット数の大きな差になっている。おそらく、[色彩][素材] の語順の外国語の翻訳のようなものも検索結果に繰り返し含まれていて、これだけの差になっているのだろう。

【Google検索のヒット数】

- ① クリーム色のサテンのドレス／サテンのクリーム色のドレス
 3530件／0件
- ② 白いサテンのドレス／サテンの白いドレス 4570件／9件

次に、日本語からの翻訳で「クリーム色の」を見ておこう。名詞修飾成分の先頭で「クリーム色の」が使われているが、英訳や独訳では被修飾名詞側に移動している。

12a. クリーム色の① 小さな②ハンカチ

..... 「スプートニクの恋人」(村上春樹、1999)

12b. small② cream-colored① handkerchief 英訳：Philip Gabriel

²⁰ 「木綿のシャツ」なら Baumwollhemd、「木綿のミニスカート」なら Baumwoll-Minirock、「シルクのワンピース」なら Seidenkleid のように、[素材] を複合名詞の先頭に統合している。

²¹ 日本語の [素材] の名詞修飾成分が被修飾名詞の近くで使われる弱い傾向について本稿で詳細に論じる余裕はない。例だけあげると、「ベージュの無地の木綿のシャツ」(川上弘美：「センセイの靴」、2001)、「青い無地のコットンのワンピース」(村上春樹：「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」、2013)、「黒いスウェットのスカート」(吉本ばなな：「N・P」、1992)、「茶色い布の巾着」(小川洋子：「妊娠カレンダー」、1991)、「黒のベルベット素材のパスルスカート」(嶽本野ばら：「鱗姫」、2001) が [素材] を [色彩] に後続させて、被修飾名詞の直前に [素材] を置いている。最後の例では「ベルベット素材の」が 9 拍もあるが [色彩] に先行していない点で [素材] の語順の特性を示していると思われる。

²² 本稿での Google の検索や Google Books Ngram Viewer の利用は 2016 年 10 月に行ったものである。

12c. ein kleines② cremefarbenes① Taschentuch …………… 独訳：Ursula Gräfe

13a. クリーム色の① 薄い②コート …… 「アフターダーク」(村上春樹、2004)

13b. a thin② cream-colored① coat …………… 英訳：Jay Rubin

13c. eine dünne② cremefarbene① Jacke …………… 独訳：Ursula Gräfe

英語小説の翻訳に戻ろう。英語やドイツ語でもコンマを後続させ、色彩語が前置される場合があり、そのような語順は、日本語でも維持される。後続するコンマが英語やドイツ語の語順の自由度を上げているのだろうが、今のところ、この問題を論じることができるほどデータが集まっていない(注18参照)。

14a. a cream-colored①, very contemporary② linen③ dress
…………… *Queen of Babble* (Meg Cabot, 2006)

14b. ein cremefarbenes①, sehr modernes② ärmelloses Leinenkleid (③+被修飾名詞) …………… ドイツ語訳：Margarethe van Pée

14c. クリーム色の①、とても今風な② 麻の③ワンピース… 日本語訳：松本裕

(14c)の日本語訳では原語の内容に忠実に訳されたのだろうが、「とても今風な」は長く、構成が複雑な修飾成分なので、これを先行させ、「とても今風な、クリーム色の麻のワンピース」とすることも可能だったのではないだろうか。

次の例では、英語とドイツ語が同じ語順で日本語の「クリーム色の」の語順が違っているが、それ以外にも着目したい点がある。日本語訳の「日当たりのいい」²³は名詞修飾節で、長い、構成も複雑な名詞修飾成分であり、単純な長さは7拍で「クリーム色の」と同じであるが、長い、構成も複雑な名詞修飾成分であり、名詞修飾節であるために複数の名詞修飾成分の先頭に置かれ、この部分でもオリジナルから語順入れ替えが起きて、「クリーム色の」に先行していると説明できそうである。

15a. a large①, light② cream-colored③ room
…………… *Can You Keep a Secret?* (Sophie Kinsella, 2003)

15b. einem großen①, hellen②, cremefarbenen③ Zimmer
…………… 独訳：Isabel Bogdan

²³ 日本語訳もドイツ語訳も light cream-colored 全体を色彩語とせず、light をクリーム色から切り離して、名詞修飾成分のひとつとして解釈している。著者自身はクリーム色の種類で明度が高いもののことを言っているのかもしれない、解釈が間違っている可能性もあるだろう。

15c. 日当たりのいい②、クリーム色の③ 広い①部屋 …… 日本語訳：佐竹史子

ここで英語の light を名詞修飾節ではなく、「明るい」という形容詞で訳すなら、「クリーム色の明るく広い部屋」ぐらいに訳すことも可能だったのではないだろうか。この場合の語順入れ替えは「クリーム色の」の複数の名詞修飾成分の先頭への移動だけということになる。

(16) と (18) と (20) は、外来語の色名を使い、名詞修飾成分が 8 拍と長くなっている場合である。日本語訳だけが語順を入れ替えており、色彩語を前に出している。

16a. a tiny① pastel-pink② suit

…………… *Confessions of a Shopaholic* (Sophie Kinsella, 2000)

16b. einem winzigen① rosafarbenen②²⁴ Kostüm …… 独訳：Maricke Heimburger

16c. パステルピンクの② 小さな①スーツ …… 日本語訳：飛田野裕子

英語は、pastel-pink と長くなっても [大小] [色彩] の語順が影響を受けていないし、ドイツ語も同様である。パステルピンクではなく、ピンクなら語形が長くないので、英語から日本語への翻訳において [大小] の名詞修飾成分に後置する例が出現しやすいと予測できるが、実際、(17c) では、「大きなピンクの本」は英語の語順のまま訳されている。

17a. a big① pink② book …… *Mini Shopaholic* (Sophie Kinsella, 2010)

17b. ein großes①, rosafarbenes② Buch …… 独訳：Jörn Ingwersen

17c. 大きな① ピンクの②本 …… 日本語訳：佐竹史子

18a. his① long-sleeved② navy③ T-shirt

…………… *The Devil Wears Prada* (Lauren Weisberger, 2003)

18b. sein① langärmliges②, marineblaues③ T-Shirt

…………… 独訳：Regina Rawlinson/Martina Tichy

18c. ネイビーブルーの③ 長袖の②Tシャツ …… 日本語訳：佐竹史子

(18c) の日本語訳では「ネイビーブルーの」という 8 拍の色彩語が使われ、これを「長袖の」に先行させ、英語から語順入れ替えが起きている。同じ訳者が 3 拍の「黒い」を使った (19c) では「長袖の」を先行させている²⁵。使う語の

²⁴ 独訳の rosafarben はピンクの意味で、パステルピンクと正確に訳していない。

²⁵ 続編なので、翻訳の時期は違う。

拍数を翻訳者が意識して訳しているとは思えないが、色彩語の3拍と8拍の違いが無意識に語順の入れ替えを引き起こしたのだろう。

19a. the long-sleeved① black② dress
..... *Revenge Wears Prada* (Lauren Weisberger, 2013)

19b. das langärmlige① schwarze② Kleid
..... 独訳: Regina Rawlinson/Martina Tichy

19c. 長袖の① 黒い② ワンピース 日本語訳: 佐竹史子

次の(20)は、「ネイビーブルーの」の先行による語順入れ替え以外にも[素材]が名詞修飾成分に登場している。英語では[色彩][素材]の語順が強い傾向になっているが、日本語訳でもこれを維持していることにも注目しておきたい。

20a. a supple① navy② suede③ boot
..... *Primates of Park Avenue* (Wednesday Martin, 2015)

20b. einen geschmeidigen① dunkelblauen② Wildlederstiefel (③+被修飾名詞)
..... 独訳: Nina Frey/Hans Christian Oeser

20c. ネイビーブルーの② しなやかな① スエードの③ ブーツ
..... 日本語訳: 佐竹史子

並列接続といっても「選択」の場合については例が少なく正確に判断できないが、「グレイか黒の」は、全体として、長い、構成の複雑な名詞修飾成分と解釈しうる形式だが、語順の傾向を決める場合には、長い、構成の複雑な名詞修飾成分としての扱いはしない方が適切なのだろう。次の例では日本語訳で語順入れ替えは起きていない。

21a. her① usual② gray or black③ suits
..... *How to Be Popular* (Meg Cabot, 2006)

21b. ihrer① sonstigen② grauen oder schwarzen③ Kostüme
..... 独訳: Katarina Ganslandt

21c. いつもの② グレイか黒の③ スーツ 日本語訳: 代田亜香子

さて、[表1]は、色彩語の長さのことなるものを使い、「美しい」と語順を入れ替えながら「花」に修飾させ、Googleで日本語の「花」の表現を検索してヒット数の変動をみたものである。結果は、色彩語が先行する割合の多い順に並べ替えてある。「黄緑色の美しい花」と「美しい黄緑色の花」では前者が圧倒

的に多く、99.9%だった。色彩語の拍数が7拍のものは「黄緑色の」「オレンジ色の」「紫色の」だが、色彩語が先行語として使われる割合が高い。3拍の基本色彩形容詞である「白い」「青い」「赤い」はいずれも後続語として使われる割合の方がはるかに高くなっている。したがって、拍数が多くなれば先行語として使われる割合が高くなることは検索結果からも支持されていると言える。「真っ赤な」と「真っ白な」はそれほど拍数が多くないが、先行語として使われる傾向が強いのは、強調を受けるからと解釈できる。関谷・田中（2013：228）は、「日英語ともに、前に置かれた形容詞が強調される」という強調制約があるとしているが、「真っ赤な」や「真っ白な」が前に置かれやすい傾向はそのようなものと考えることができるだろう。

【表1】 拍数等の関与

(単位：ヒット数)

調査した色彩語	拍数	[色彩][美しい][花] (a)	[美しい][色彩][花] (b)	割合 a/(a+b)
黄緑色の	7	7,310	10	99.9%
真っ赤な	4	4,960	1,070	82.3%
オレンジ色の	7	18,000	4,510	80.0%
真っ白な	5	5,030	1,460	77.5%
黄色の	4	33,000	10,600	75.7%
紫色の	7	40,700	24,400	62.5%
黄色い	4	1,870	1,470	56.0%
ピンク色の	6	19,700	17,000	53.7%
水色の	5	4,900	7,750	38.7%
白い	3	4,630	13,200	26.0%
青い	3	2,780	9,550	22.5%
赤い	3	1,270	5,860	17.8%

【表1】の全体を見ると、上位を占めるのは名詞が多い。「黄緑色の」、「オレンジ色の」、「黄色の」、「紫色の」、「ピンク色の」、「水色の」が名詞性修飾語であるが、すべて形容詞の「白い」、「青い」、「赤い」よりも[色彩]を先行させる割合が高い。とくに「黄色の」が75.7%で、「黄色い」が56.0%だが、同一の色彩なので、頻度の違いは品詞の違いに由来していると考えられる。つまり、「[名詞]の」になる名詞性の名詞修飾成分は形容詞のものよりも前に置かれる傾向が強

ということになるだろう。日本語記述文法研究会編（2009：174-182）は「時・場所を表す名詞修飾成分」や「所有を表す名詞修飾成分」が性質を表す名詞修飾成分よりも前に置くのが基本語順だと説明しているが、この二つも、日本語では、通常、名詞で表現されるので、名詞をもとに作った名詞性修飾語は一般に先行傾向があると見なすこともできるかもしれない。英語では、逆に、名詞性修飾語は被修飾名詞の直前か、なるべく近くに配置する規則性があるので、この点では日英は大きな違いがある²⁶。ドイツ語は、英語のように名詞性修飾語を使うことは基本的になく、次の（22b）では、英語の名詞性修飾語とはことなり、ドイツ語ではknielang（「膝の長さの」）という形容詞を使い、英語から語順の入れ替えが起きていて、被修飾名詞の直前ではなく、2つの名詞修飾成分の先行語として使われている。日本語訳では、「膝丈」が統合された複合名詞が作られているが、「膝丈の」を使って訳すこともできたところだろう。

22a. a severe① knee-length② dress … *Legally Blonde* (Amanda Brown, 2003)

22b. ein knielanges②, schlichtes① Kleid …………… 独訳：Ulrike Laszlo

22c. 地味な① 膝丈ワンピース (②+被修飾名詞) …………… 日本語訳：鹿田昌美

3.2 名詞修飾用法の二つの色彩語が並列接続される場合

英語のblack-and-white²⁷は、2つの色彩形容詞が並列接続され、構成が複雑な名詞修飾成分になっている。全体としては3音節で長い名詞修飾成分と言えるだろうが、次の文のように、被修飾名詞の直前という、通常の色形容詞の位置から英語のblack-and-whiteは移動していない。ドイツ語では、二つの色彩形容詞を並列接続詞なしで複合することになるが²⁸、色彩語の語順としては、英語と同様に被修飾名詞の直前に置かれている。日本語訳は、英語からの直訳の「黒と白の」を「白と黒の」に変え、「巨大な」に先行させ、語順入れ替えが起きている。

23a. a massive① black-and-white② billboard

…………… *Mini Shopaholic* (Sophie Kinsella, 2010)

²⁶ 関谷・田中（2013：230）は「名詞的な性質をもつものほど名詞の近くにくる」という英語の「一般的な原則」について説明している。

²⁷ ハイフンの有無に関してはゆれていて、ハイフンを使わないひともいる。

²⁸ 現行のDudenの文法（Dudenredaktion 2009）でもこのような複合語では、二つの色彩語のあいだにハイフンを入れるように示しているが、この例文のように入れないひともいる。

23b. eine riesige①, schwarzweiße② Plakatwand …… 独訳: Jörn Ingwersen

23c. 白と黒の② 巨大な①看板 …… 日本語訳: 佐竹史子

次の例も色彩語の語順については同様である。英独では語順が一致している。日本語訳は二つあるが、どちらも語順の入れ替えが起きている。なお、ドイツ語では複合形容詞の色彩の語順を入れ替えて「グレーと白の」のように変えている。

24a. actual① big② white-and-gray③ seagulls

…………… *Shadowland* (Meg Cabot, 2000)

24b. echte①²⁹, große② grauweiße③ Möwen … Yvonne Hergane-Magholder訳

24c. 白とグレーの③ ほんものの① 大きな②カモメ …… 布施由紀子訳

24d. 白とグレーの③ 大きい②カモメ …… 代田亜香子訳

次の用例では、英語の (a) ではred and yellowにハイフンを使用していない。色彩語の語順については、英独で一致、日本語では、語順を入れ替えということになっている。なお、ドイツ語の複合形容詞の内部の語順は、今度は英語のものに一致して「赤と黄色の」になっているが、日本語訳で「赤と黄色の」から「黄色と赤の」に変えられている。この種の色彩語どうしの語順の問題は、本稿のテーマではないが、各言語で何らかの傾向があるのかもしれない。

25a. a thick① red and yellow② poncho

…………… *Shopaholic Ties the Knot* (Sophie Kinsella, 2002)

25b. einem dicken①, rot-gelben② Poncho …… 独訳: Marieke Heimburger

25c. 黄色と赤の② 厚手の①ポンチョ …… 日本語訳: 佐竹史子

「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」(村上春樹、2013)にも複数の色彩語の並列接続による表現がある。「ピンクと白の大きな花」という日本語として単純な表現であり、日本語の母語話者にとっては「大きなピンクと白の花」と意味的に区別する必要性は感じられない。ところが、英訳も独訳もこの箇所がそのまま訳せず、意識して訳している。1章で扱った平出隆氏の「猫の客」に出て来る「白い小さな玉」と「小さな白い玉」の一方を英訳も独訳も意識しているのも、言語間の語順の違いが影響した可能性があるだろう。

²⁹ 独訳では、echte「本物の」を直後の形容詞を修飾する副詞とは見なせずに、独立させ、名詞を修飾する訳しかたをしていて、「本物のカモメ」という解釈をしている。

次の用例では、英語でも色彩語が名詞修飾成分の先頭にあるが、これは、色彩よりもブランド名の方が被修飾名詞に近接する規則性が英語にあるためである。したがって、用例の語順は英語の規則に従った語順である。本稿では詳しく扱わないが、英語のブランド名は名詞性修飾語として、形容詞の名詞修飾成分よりも被修飾名詞に近い位置をとるが、ドイツ語は「素材」の場合と同様にブランド名を名詞の先頭に統合するか、後位修飾成分を使う。日本語は、位置について自由度が高いが、高級ブランド名などを先頭に配置する傾向がある。(26c) では、色彩語が並列接続により長くなったことと構成が複雑になったことにより、色彩表現の方が先頭に来ていると解釈できるが、「〈テンパリー〉の」というブランド名の名詞修飾成分は、先頭に置かれてもよかったはずである。

26a. a white-and-gold① Temperley② evening dress
 *Mini Shopaholic* (Sophie Kinsella, 2010)

26b. ein weißgoldenes① Temperley-Abendkleid (②+被修飾名詞)
 独訳: Jörn Ingwersen

26c. 白とゴールドの① 〈テンパリー〉の②イブニングドレス
 日本語訳: 佐竹史子

「白とゴールドの」のような長く、構成が複雑な修飾成分でない単純な色彩修飾成分が使われて、ブランド名が先頭に来る例をいくつか見ておこう。

27a. my① short② black③ Calvin Klein④ wraparound skirt
 *The Boy Next Door* (Meg Cabot, 2002)

27b. meinen① kurzen② schwarzen③ Wickelrock von Calvin Klein④
 独訳: Andrea Brandl

27c. カルバン・クラインの④ 黒い③ ミニの②巻スカート
 日本語訳: 代田亜香子

英語の言い方は「年代」までも名詞修飾成分にしている、名詞のfiftiesを先頭にしているが、独訳ではそのままの言い方が使えず、「五十年代風の」は前置詞句で後位修飾成分になっている。日本語でもfiftiesを「メキシコ風の」と合わせて複合語を作って訳している。なお、英語の「年代」の名詞修飾成分は、ドイツ語でもこのままでは訳せず、前置詞句による後位修飾成分に変えて、訳されている。

- 28a. the fifties① black-and-white② Mexican③ swing skirt
 *Queen of Babble* (Meg Cabot, 2006)
- 28b. den schwarzweißen② mexikanischen③ Tellerrock im Stil der Fünfzigerjahre
 ① 独訳: Margarethe van Pée
- 28c. 五十年代メキシコ風の (①+③) 白と黒の②フレアスカート
 日本語訳: 松本裕

日本語訳では、「五十年代メキシコ風の」が14拍、「白と黒の」が構成が複雑といっても6拍しかないので、14拍を前に出した方が自然な語順になるのである。

なお、英語では、色彩形容詞が並列接続になっても他の名詞修飾成分に対して先行傾向は出て来ないが、[素材]の場合でも同様で、長くなっても、構成が複雑になっても、[素材]が色彩語の前に出るということはない。次の文では「サテン」と「レース」が並列接続詞のandでつながれているが、英語で普通の[色彩][素材]の語順のままになっている。

29. the white satin-and-lace wedding dress
 *You Know You Love Me* (*Gossip Girl* #2, Cecily von Ziegesar, 2003)

3.3 その他の複雑な構成の色彩語の場合

調査した文献には「色が白い」や「肌が黒い」を名詞修飾成分として使う例はなかったので検討できないが、「濃い」や「明るい」や「暗い」が色彩名詞を修飾しているような例は見られた。この種修飾を色彩語に行う場合は、英語やドイツ語では色彩形容詞が使えるが、日本語の色彩形容詞では使えず、「濃い青の」のように色彩名詞を使うことになる。“the plum-colored sheath dress” (E. L. James: *Fifty Shades of Gray*. 2011) は「濃いプラム色のシンプルでタイトなワンピース」と訳されているが、「シンプルで」「タイトな」は訳者がsheath dressの説明として書き加えたものだが、「濃いプラム色の」という色彩語が全体で8拍あり、複雑な構成の名詞修飾成分であるために訳者が独自に添加した名詞修飾成分を後続させることになったのではないだろうか。日本語の文学作品でこの種の色彩語が他の名詞修飾成分に先行している例は「濃いブルーの新しいシャツ」(「羊をめぐる冒険」、村上春樹、1982)のように容易に見つかるだろう。

英語小説ではこの種の色彩語はふつうの色彩語と扱いは変わらないし、下記例では独訳は英語のままの語順で訳されているが、日本語訳では語順を入れ

替えている。なお、英語とドイツ語では前置詞句で表現している後位修飾成分は日本語では名詞修飾節として、名詞修飾成分の前に置かれている。

30a. this① amazing② deep-blue③ dress with a fake-fur hem
..... *Mini Shopaholic* (Sophie Kinsella, 2010)

30b. dieses① atemberaubende②, dunkelblaue③ Kleid mit dem Kunstpelzsaum
..... 独訳：Jörn Ingwersen

30c. フェイクファーが裾についた濃いブルーの③ おしゃれな②ワンピース
..... 日本語訳：佐竹史子

この種の構成が複雑な色彩語が語順を入れ替える例をもうひとつあげておこう。日本語訳で英語から色彩語が語順を入れ替えて訳されているが、もうひとつの名詞修飾成分が「擦り切れた」(5拍)で動詞性修飾語である。(30c)では日本語で名詞修飾節が先頭に置かれる例を見たが、動詞性修飾語も名詞修飾節と見なすべきなのかははっきりしないが、どちらも複数の名詞修飾成分と使われた場合に先行傾向を有している(次の4章で動詞性修飾語の名詞修飾成分内の先行傾向について検討する)。「暗い紫色の」(10拍)が英語のオリジナルの語順から入れ替えられて、先行しているのは、これまでの例と同じく、長さや構成の複雑さのためであると考えられるが、日本語の動詞性修飾語とこの種の色彩語の語順の関係を明確にすることは、今のところ、難しいのではないだろうか。

31a. a threadbare① dark-purple② couch
..... *The Broken Hearted* (Amelia Kahaney, 2013)

31b. 暗い紫色の② 擦りきれた①ソファ 日本語訳：法村里絵

4. 日本語の名詞修飾成分間の語順に関与するその他の傾向

日本語は「前位修飾の配置に関する条件が見られる英語のような言語」ではないとまで書くひとがいるが(岸本・菊地 2008:99)、語順に比較的自由度はあると思われるが、3章で日本語の名詞修飾成分の語順には長短配列傾向や複雑単純配列傾向があることを色彩語の語順を中心に確認した。長短配列傾向と複雑単純配列傾向の二つの傾向以外にも、強度は様々であるが、いくつかの語順の傾向がある。

- a. [素材] の被修飾名詞に対する近接配置傾向
- b. ブランド名（とくに高級ブランド名）を複数の名詞修飾成分の先頭で使う傾向
- c. 強調された名詞修飾成分を先行語として使う傾向

[素材] の被修飾名詞に対する近接配置傾向と、「シャネルの白いスーツ」のような表現でブランド名が[所有者]や[場所]と似た傾向、つまり、複数の名詞修飾成分の先頭に出現する傾向も見られることを3章の事例の中で述べた。また、強調語の先行傾向は、[表1]の「真っ赤な美しい花」や「真っ白な美しい花」がこの語順で使われることが多いこととの関連で説明した。ここでは、もうひとつ、動詞性修飾語について考えておきたい。

動詞性修飾語とは、名詞修飾節のように複雑な構成はとっていない、動詞由来の名詞修飾成分のことを言っている。当該時点の状態を表す「古びた」のような名詞修飾成分を念頭に置いているが、名詞修飾節の一種とも考えられるが、4拍しかなく、形容詞や形容動詞と比べても長くない形式である。「古びた」と「古い」のGoogle検索の結果をまとめたのが[表2]である。「～家」を検索した結果で、検索語全体を引用符に入れ、念のため、「完全一致」を指定して検索したヒット数を示したものだ。

(単位：Google検索のヒット数)

[表2] ①② [家]		後続語 ②			
		小さな	大きな	古びた	古い
先行語 ①	古びた	4170	807		
	古い	1680	2540		
	小さな			322	1790
	大きな			7	2030

「古い」に比べて「古びた」は先行する傾向が顕著である。「古びた」を後続語として使う場合のヒット数が著しく減少している。「大きな古びた家」の場合は7件しかなかった。「古びた小さな家」(4170件)と「小さな古びた家」(322件)のヒット数も10倍以上の差になっていて、「古びた」は二つの修飾成分の先行語として使われる傾向が非常に強いことが分かる。一方、「古い」の場合、「小さな」や「大きな」との語順は、どちらでも似たようなヒット数であり、「古い」を先行語として使っても、後続語として使ってもヒット数が大きく影響を受けることはなく、動詞性修飾語の「古びた」と形容詞の「古い」の語順の傾向が同一でないことは明らかであろう。

5. 並列接続の複数の述語成分と複数の名詞修飾成分の関係から

ここでは二つ以上の述語成分が並列接続される場合の述語用法と複数の名詞修飾成分の関連から両用法の置き換えや内部の語順の問題を考えておきたい。日本語は形容詞や形容動詞の並列接続は、並列接続詞の「と」が使えないので(*クッションは青いと丸い)、先行する形容詞や形容動詞を連用形や連用テ形にすることで行うが、この形式は、自由度が低く、使われにくく、認められにくい形式になっているようである。英語やドイツ語では、述語形容詞の並列接続は、接続詞のandやundを介して行われるが、自由に使える形式のようで、使用制限があるようには思えない。

森田(1994:38)の「連接された形容詞」のアンケート調査(49名から50名の学生が対象)に、述語成分を並列接続して、一方を色彩形容詞にするものがある。下記の用例は、色彩語を前置させる方が後置させるものと比べて自然という判断を大学生から受けている。

32a. この粉薬は青くて 苦い。

32b. この粉薬は苦くて 青い。

33a. 太郎の瞳は黒くて 丸い。

33b. 太郎の瞳は丸くて 黒い。

修飾用法の判断では、「彼は小さな 赤い丸をかいた」や「机の上にある厚い 赤い紙を持って来てくれ」が「赤い」を先行させる語順よりも自然と判断する大学生が多かったようなので、修飾用法に比べて述語用法で色彩語の自然な語順は前置傾向を強めると考えられる。なお、色彩形容詞を前に置いた方が他の述語成分を前に置いたものより支持が得られているが、(33ab)の太郎の瞳の用例では、どちらも自然と判断した学生の割合が50%あったようだ。森田(1994:38)の調査結果でもう一つ注目したいのは、(32ab)の粉薬について「青くて苦い」と「苦くて青い」のどちらも不自然と判断した割合が18%もあったことだ。筆者のわたし自身の語感もこの判断を支持している。少なくとも「粉薬」の色彩と味覚を述語で結合することには違和感が感じられる。森田氏の被験文に名詞修飾用法の「青くて苦い粉薬」や「苦くて青い粉薬」はなかったが、こちらならもっと容認されたのではないかと思う。つまり、日本語で二つの形容詞や形容動詞を並列接続するには、述語用法よりも名詞修飾用法の方が自由に使い、

認められやすいのではないかということである。

「そのトマトは赤くて、おいしい」は、内丸（2006）が論文の冒頭に置いて、「形容詞・形容動詞を二つ続けて等位接続したもの」の説明に使っているものである。筆者にはあまり自然な日本語には思えないが、おそらく、上に述べたような、二つの形容詞や形容動詞を並列接続する述語の問題であろう。冒頭の「その」は削除して、引用符に入れて、Googleで検索した結果を次に示しておこう。読点は無視するのがGoogleの仕様のようなので、入れる必要はない。「トマトは赤くておいしい」の5件の使用例のうち1件はこの論文の例文への参照である。一方、名詞修飾用法のものはかなり見付き、日本語では述語で並列接続（等位接続）したものより、名詞修飾用法の方が使われやすいという筆者の考えを裏付けるものであろう。

- ① トマトは赤くておいしい …………… 5件
- ② 赤くておいしいトマト³⁰ …………… 629件

さて、文学作品と翻訳で、色彩語の語順の違いと述語用法と名詞修飾用法の置き換えの両方を確認してみよう。語順の問題や述語用法と名詞修飾用法の置き換えだけでなく、うまく訳せず、意識したりする場合なども観察することができる。

次の例では、英独ともに語順の入れ替えを行っていて、「小さくて白かった」と表現している。また、英語もドイツ語も名詞修飾用法だったものを述語用法に用法を置き換えている点も興味深い。上に述べたように、日本語では並列接続の述語用法が発達していないと思われるが、逆に、名詞修飾用法の用法がかなり広がっているのではないだろうか。この文では、すでに話題に上がっている「手」について、描写に必要な新しい形容詞だけで述べるのではなく、もう一度、名詞修飾用法の形容詞を使い、「白くて小さい手だった」と述べている。文脈上既出の「手」をもう一度出すのは、不要で、余分とするような言語があってもおかしくないだろう。英訳や独訳では、「手」は出さずに形容詞の述語用法

³⁰ なお、二つの名詞修飾成分を入れ替えた「おいしくて赤いトマト」だとヒット数は2件しかなく、この場合の名詞修飾成分の語順は入れ替え困難である。色彩語の弱い先行傾向には合致する語順だが、長短配列傾向には反している。古代日本語からのシク活用を後置する語順について小池（2001：51）が「一般に、ク活用形用とシク活用形容詞とが並列関係を構成する場合には、ク活用形容詞が前項となり、シク活用形容詞が後項となる」と述べており、なんらかの関わりがあるのかもしれない。なお、小池（2001：49-58）は、名詞修飾成分の用法を並列関係と修飾用法の二つに区別しており、並列関係の場合にあてはまる一般則としている。

を使っている、おそらく、述語用法で述べるのが妥当な状況なのだろう。

34a. 震えてはいなかったが、白くて① 小さい②手だった。

..... 「TUGUMI」(吉本ばなな、1989)

34b. Her hands weren't trembling, they were just extremely small② and white①.

..... 英訳: Michael Emmerich

34c. Sie (= die Hände) zitterten zwar nicht gerade, waren aber klein② und weiß①.

..... 独訳: Annelie Ortmanns

他にも、日本語の名詞修飾用法が英訳で述語用法になる例に『霧のむこうのふしぎな町』(柏葉幸子、1980)のChristopher Holmes氏による英訳では、「赤くて大きい鼻」が “Itchan's nose is big and red, [...]” と、色彩形容詞の語順を後続語に変えたうえで述語として訳している。

こんどは、英語小説からの翻訳について見てみよう。語順入れ替えが起きるだけでなく、日本語では、述語用法から名詞修飾用法への用法の置き換えが起きている例である (35c、36b)。

35a. The house is large① and gray② and ancient-looking, [...]

..... *Shopaholic Ties the Knot* (Sophie Kinsella, 2002)

35b. Das Haus ist riesig① und grau②, und sieht [...] uralt aus

..... 独訳: Marieke Heimburger

35c. 時代を感じさせる 灰色の② 大きい①お屋敷 日本語訳: 佐竹史子

36a. It is large① and gray②, intimidating③.

..... *Vanishing Acts* (Jodi Picoult, 2005)

36b. そこは威圧的な③、灰色の② 広い①空間だ。 日本語訳: 川副智子

次に、述語用法と名詞修飾用法の置き換えが起こらないが、内部の語順がことなる場合の用例を幾つか見てみよう。(37)では英訳で色彩語の語順の入れ替えが行われ、独訳では日本語の語順を維持している。語順の入れ替えの有無をもとに判断すると、述語における色彩形容詞の後置傾向は英語では強く、ドイツ語ではそれほど強くないと判断できるだろう。

37a. そう言えばやたら白くて① 細かった②な

..... 「TUGUMI」(吉本ばなな、1989)

37b. You know, I guess now that you mention it she is unusually thin② and

pale①, isn't she? 英訳：Michael Emmerich
 37c. Wo du es sagst ... sie ist wirklich ganz blaß① und mager②
 独訳：Annelie Ortmanns

英語で [大小] に対して色彩形容詞が後続語になりやすいことは、Google Books Ngram Viewer³¹の大量の英語のコーパス³²でも確認することができる。smallとwhite、bigとwhiteで調べて、色彩語を後続語として使う方が先行語として使うものに比べて5.7倍から無限大になっている。

[表3] Google Books Ngram Viewer による英語の述語形容詞の語順の傾向

検索文字列	語順形式	2000年時点の頻度数のパーセント表示	色彩語の後置の前置に対する倍率 (a/b)
is small and white	[大小] [色彩]	a : 0.0000000840%	12倍
is white and small	[色彩] [大小]	b : 0.0000000070%	
was small and white	[大小] [色彩]	a : 0.0000002201%	9.1倍
was white and small	[色彩] [大小]	b : 0.0000000241%	
is big and white	[大小] [色彩]	a : 0.0000000563%	無限大
is white and big	[色彩] [大小]	b : 0.0000000000%	
was big and white	[大小] [色彩]	a : 0.0000001806%	5.7倍
was white and big	[色彩] [大小]	b : 0.0000000318%	

一方、日本語の色彩語は、(37a)のように、英語とは逆に、述語において先行傾向が強くなっていると思われる。(39a)、(40a)、(41a)、(42a)、(43a)も複数の述語成分を使い、色彩語を先行させている。この論文の筆者の語感では、これらの例の日本語訳で色彩語を後続させにくいように感じられる。

日本語で述語における色彩語先行傾向が強いとしたら、英語の小説の日本語訳がそのままの語順では訳しにくくなるという現象が観察されることになる。そのままでは翻訳できない場合が出て来るようであるし、語順入れ替えが起き

³¹ 5語程度以下の複数の文字列をコマで区切って検索すると、Google Booksの「数百万タイトル」の書籍から頻度をパーセント表示し、グラフで比較してくれる。『カルチャロミクス』(エレット・エイデン/ジャン＝バティースト・ミシェル、草思社、2016)に関係者みずからの解説や応用例の示呈がある。

³² コーパスとしてEnglishを指定(他にイギリス英語、アメリカ英語、小説の英語などの指定が可能)した。日本語のコーパスはない。

る場合もかなり生じる。(38c)の「ふわふわしたブロード」では、並列接続の述語を修飾—被修飾関係に置き換え、二つの述語成分をひとつの述語成分に変換しているし、「大きな瞳はブルー」では、英語の二つの述語成分の一方を主語に修飾させ、2つの述語成分のまま訳すのを回避していると解釈できる。独訳ではこのような変換や述語形容詞の一方を主語に修飾させるなどの文構成の変更は起きておらず、英語からドイツ語にスムーズに訳されているが、髪の記事と瞳の記事の順番は入れ替えている。

- 38a. Her hair was wispy① and blond② and her eyes were huge③ and blue④.
..... *Primates of Park Avenue* (Wednesday Martin, 2015)
- 38b. Ihre Augen groß③ und blau④, ihr Haar flaumig① und blond②.
..... ドイツ語訳：Nina Frey/Hans Christian Oeser
- 38c. 髪は ふわふわした① ブロードで②、大きな③瞳はブルー④
..... 日本語訳：佐竹史子

今度は、再び、日本語の小説からの英訳や独訳を観察してみよう。日本語が色彩語を先行させる傾向があり、比較的強い色彩語の後置傾向がある英語は語順入れ替えが起きる可能性がある。もっとも、英語の述語での色彩語の後置傾向は弱い傾向であって、名詞修飾用法の場合ほど強い傾向ではないので、日本語の語順が維持される場合も出て来るはずである。次のふたつの用例では、3つの述語成分の並列接続だが、英訳も独訳も日本語の語順を維持している。

- 39a. 髪は黒くて① 短く②、まっすぐ③。…「アフターダーク」(村上春樹、2004)
- 39b. Hair black①, short②, and straight③. 英訳：Jay Rubin
- 39c. Ihre Haare sind schwarz①, kurz② und glatt③. 独訳：Ursula Gräfe
- 40a. 腕も白くて① 細かった②です 「電車男」(中野独人、2004)
- 40b. Her arms were so white① and thin② too (ohyeah) ... 英訳：Bonnie Elliott
- 40c. Auch ihre Arme sind hell① und schlank② Hh Hh 独訳：Antje Bockel

複数の述語成分のひとつが色彩語の場合、ドイツ語ではそれほど強い語順の傾向を示さないで、英訳が語順を入れ替え、独訳が語順を維持する場合も予想できるが、実際にそのような例はかなり見つかる。(41)がそうである。英訳だけが語順を入れ替えて、「白くて小さくて」をsmall and whiteに変換している。(42)と(43)でも確認でき、翻訳者もことなっているので、個人的傾向ではな

く、英語の方がドイツ語よりも色彩語を後続語として使う傾向が強く、ドイツ語では英語ほど色彩語を後続語として使う傾向は強くないという推定を支持する事例だろう。

41a. それ (=チビという名前の猫) は白くて① 小さくて②
..... 「猫の客」(平出隆、2001)

41b. It was small② and white①, [...] 英訳: Eric Selland

41c. Chibi war weiß① und klein② und [...] 独訳: Ursula Gräfe

42a. 水は獣の目のように青く①、そしてひっそりとしていた②。

... 「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」(村上春樹、1985)

42b. The water is as tranquil② and blue① as the eyes of the beasts.

..... 英訳: Alfred Birnbaum

42c. Es ist blau① und still② wie die Augen der Tiere.

..... 独訳: Annelie Ortmanns-Suzuki/Jürgen Stalph

43a. 拳銃はあまりにも黒く①、あまりにも小さかった②で、本物の拳銃には見えなかった。 「かえるくん、東京を救う」(村上春樹、1999)

43b. The gun was so small② and so black① it hardly looked real.

..... 英訳: Jay Rubin

43c. [...] so schwarz① und so klein②, dass sie gar nicht wie eine echte Pistole aussah. 独訳: Ursula Gräfe

ドイツ語では、「あまりにも黒く、あまりにも小さかった」の部分が日本語と同じ語順が使われているが、英語では語順が変えられていて、「あまりにも小さく、あまりにも黒かった」のようになっている。

複数の述語成分の一方が色彩語の場合のドイツ語の語順だが、強い傾向はまったくないようだが、Googleの検索で色彩語のごく弱い後置傾向は確認できる。次の結果が[表3]の最初の二つに対応するドイツ語を検索して、ヒット数を出したものだ。なお、Google Books Ngram Viewerでは、ドイツ語コーパスは大きなものではなさそうで、①も②もまったく検出されない。

① ist klein und weiß [小] [白] 12,300件

② ist weiß und klein [白] [小] 7,430件

なお、5章でこれまで観察した英語の述語成分間の語順は、[原因]と[結果]

の関係がない場合ということになるが、英語では述語に [結果] and [原因] と並べる傾向が強いらしく³³、下記の *Vanishing Acts* (Jodi Picoult, 2005) からの例では、これまで見てきた例と異なり、色彩語が先行しているが、Google Books Ngram Viewerでもこの語順の方が使用例が多い³⁴。

44. The earth all around was black① and burnt②, but the fire was gone.

45. his eyes are red① and raw②

(44) は、焦げて②、黒くなっている①だし、(45) はひりひりして②、赤くなっている①ということで、[結果] を先行させ、[原因] を後続させた語順になっている。

6. 総括

日本語の名詞修飾用法の色彩語は、「白い大きな犬」のように長さや複雑さとは無関係に他の名詞修飾成分に対して先行することもあるが、長くて、構成が複雑な色彩語が名詞修飾成分の場合、他の名詞修飾成分に対し先行傾向が強まり、そのため、英語からの翻訳では、独訳が元の英語の語順を維持するのに日本語訳は語順を入れ替えてしまう場合があることを確認した。一方、英語でもドイツ語でも、長くて、構成が複雑な色彩形容詞が他の名詞修飾成分に対して先行傾向が出てくるということはなかったし、関谷・田中 (2013) が英語で想定しているような短長配列傾向も色彩語を中心に調査した用例では認められなかった。また、日本語の色彩語は、先行傾向が強まっても、さらに強く先行傾向を持つ動詞文による名詞修飾節やブランド名のような名詞修飾成分があれば、そういう名詞修飾成分を超えてまで語順の移動を引き起こさない実例も観察した。

日本語の名詞修飾用法の色彩語が長くなったり、複雑になったりする場合の長短配列傾向や複雑単純配列傾向を確認したわけだが、こういう傾向は、色彩語に限って存在するわけではない。おそらく、名詞修飾成分であればどのよう

³³ 名詞修飾用法について関谷・田中 (2013: 227-228) は、英語には、日本語とは逆の [結果] [原因] の語順傾向があると指摘しているので、ここで確認できる述語成分の語順はおそらくそれと関係しているだろうが、“black burnt earth” は Google Books Ngram Viewer でも見つからず、ここでの表現を単純に名詞修飾用法に変換できるわけではないようだ。

³⁴ “was black and burnt, was burnt and black” や “are red and raw, are raw and red” を Google Books Ngram Viewer で検索した。

なものであれ、そういう傾向を帯びるのであろう。今回の調査でも、[素材] の場合が目についたので、補足しておこう。[素材] は英語の場合には [色彩] よりも被修飾名詞に近い位置に名詞性の名詞修飾成分として現れるのが基本であり、ほとんど例外がないようだが、英語小説の日本語訳でも [色彩] [素材] が維持されていることが多く、「ピンクのシルクの～」や「白い Cotton の～」のような名詞修飾成分が使われている。おそらく日本語にも [素材] を被修飾名詞に近接して配置する弱い傾向があるものと考えられ、[素材] の名詞修飾成分が多少長くとも「白い (3拍) プラスチックの (7拍) 箱」や「巨大な (4拍) 大理石の (6拍) 暖炉」ぐらいならとくに違和感を生じないのではないだろうか。しかし、[素材] の名詞修飾成分がもっと長くなると、やはり、日本語訳は語順を入れ替えて、[素材] を他の名詞修飾成分に先行させる例が観察されるようだ。(46) では、「ポリエステル製の」³⁵と9拍の名詞修飾成分を翻訳者が選択した時点で、それが英語の標準的な語順の [色彩] [素材] の語順を入れ替えさせ、6拍の「緑色の」を後続させることになったものと考えられる。

46a. her green① polyester② smocks from the diner

..... Cop Town (Karin Slaughter, 2013)

46b. ダイナーで着る ポリエステル製の② 緑色の① 上っ張り

..... 日本語訳：出水純

さて、次に、本稿では論じ切れていない点もまとめておきたい。構成が複雑な名詞修飾成分と長い名詞修飾成分の関係は、区別は行ったが、両者の関係が十分に解明できたとは言えない。名詞修飾成分の構成が複雑なら、通例、長い名詞修飾成分でもあるが、逆に、長い名詞修飾成分であれば構成が複雑かと言えば、そうではない。構成が複雑な「白と黒の」(6拍) と構成は単純だが長い「紫色の」(7拍) はどちらの先行傾向が強いのか、本稿で調査した範囲内では、判断できなかった。

名詞修飾成分の可能な個数と種類についても判断できなかった。英語の小説には日本語では考えられないような多数の名詞修飾成分を使っている例が見ら

³⁵ 日本語では、「～製の」の方が「～の」よりも2拍長くなり、傾向として先行しやすいと思われるし、同様に、「レンガの」とするより「レンガ造りの」とする方が3拍も長くなり、名詞修飾成分内で先行しやすくなると思われる。「煉瓦づくりの古い水門」(村上春樹：「蜚」、1984) の英訳では英語の素材修飾語の語順に従って、語順が入れ替えられて、an old brick sluice gate (Philip Gabriel訳)。

れることがあるようだ³⁶。日本語訳では、訳出困難になったり、意識され、構成も変えられてしまう場合がかなり出て来るように思われる。次にあげるのは、英語のベストセラー小説からの多くの名詞修飾成分をとっている例を取り出したものである。

【*Queen of Babble in the Big City* (Meg Cabot, 2007)】

- ① the cutest Jonathan Logan red Spanish lace dress
[冠詞] [評価] [ブランド名] [色彩] [国籍] [素材]³⁷ + dress
- ② my 1950s pink silk Jacques Fath evening gown
[所有] [年代] [色彩] [素材] [ブランド名] + evening gown
- ③ my double-flap seventies Meyers handbag
[所有] [製品の形式] [年代] [ブランド名] + handbag
- ④ my black-and-white vintage³⁸ Suzy Perette sleeveless day dress
[所有] [色彩] [年代] [ブランド名] [製品の形式] + day dress

日本語は英語と比べて名詞修飾成分内の語順は自由度が大きく、語順の傾向もそれほど発達していないが、それが多数の名詞修飾成分を同時に使うことが少ない理由なのかもしれない。とはいえ、上の英語の例では、多くの名詞修飾成分を同時に使っているが、すべて規則によって語順が決まっているわけではないように思う。[ブランド]、[年代]、[色彩]、[製品の形式] の位置が変動していて、何らかの規則性から語順を完全に導き出すのは難しいだろう。英語では、名詞と形容詞の修飾語で、名詞の修飾語が後続するという一般的な傾向があるとされるが、①では、名詞のJonathan Logan (ブランド名) が形容詞に先行しているし、②では、[年代] の1950sが形容詞に先行している。④でも、形容詞のsleevelessが名詞の修飾語に後続しているなど、名詞性の名詞修飾成分が後置されるという英語の一般的な語順の傾向に当てはまっていない。また、sleevelessが被修飾名詞に近い位置をとっているが、製品の形式はこの位置が定位置だというわけでもなく、③では、double-flapがmyの直後に使われている。英語の名

³⁶ 数の上では、日本語でも名詞修飾節や[場所]や[所有者]の名詞修飾成分を加えればこのくらいの数の名詞修飾成分が出現する例もあると思う。

³⁷ Spanish raceについては、[[国籍] [素材]] のようにまとまりを形成しているのかもしれない。

³⁸ vintage をここでは[年代]と分類した。[新旧]なら、newやoldやyoungと同一グループになるが、この例文ではvintageが[色彩]に後続しており、関谷・田中(2013: 218)にあるような[新旧] [色]の英語の語順の傾向には合致しないことになる。しかし、[年代]と分類しても、②の例文では[年代] [色彩] になっていて、ここの語順とは異なる。

詞修飾成分内の語順の規則性や傾向がどの程度のものであれ、英語では多くの名詞修飾成分を同時に使うことができることも上の例は示している。これだけ多くの名詞修飾成分を並べられると（4個から6個）、日本語訳では定冠詞や所有代名詞は訳出しないのが普通だとしても、残りの名詞修飾成分すべてを自然な日本語に訳すのは容易ではないようだ。一部を訳さなかったり、一部を複合語にしてしまったりという方法が採られたりということも観察できるが、④の日本語訳は、「(今日のは) モノトーンのスリープ。ヴィンテージのスージー・ペレットよ。」(松本裕訳)のように、2分割され、day dressは訳出しないで、暗示するという方法をとっている。多くの名詞修飾成分を使う英語の例が自然な日本語にしにくいことから判断すると、同時に使える日本語の名詞修飾成分の数については上限に制約のようなものがある可能性もあるだろう。

基本的な言語の特徴との関連についても最後に触れておきたい。言語における「並列(等位)」ということの意味である。名詞修飾成分であれ、述語成分であれ、並列接続かそうでないかは、1音ずつ順番に発声される音声言語の基本的特徴をキャンセルする重要な仕組みのほずであり、並列とは等位であり、要素は同順位で同格であるはずで、それが理論的に考えられる並列接続なのではないか。本稿で観察した日本語の名詞修飾成分内の語順の違いは、並列接続であっても(並列接続か、そうでない接続なのか、あいまいであるが)、出現の順序が問題にされ、順序を変えにくく感じられる部分が出て来るのだから、純粹な並列接続ではなく、正しく機能していない並列接続のようにも思えるが、逆に、言語の線条性という音声言語の特徴の影響でこのような形式で並列接続が成立していると見るべきかもしれない。完全な並列接続は自然言語にはなじまないものかもしれない。

【参考文献】

- 内丸裕佳子(2006):「等位接続に現れる形容詞・形容動詞のテ形について」『筑波応用言語学研究』13号、43-56。
- 岸本秀樹・菊地朗(2008):『叙述と修飾』、研究社。
- 金光康(1998):「連体修飾語の語順制約」『東北大学言語学論集』7号、67-79。
- 小池清治(2001):『現代日本語探究法』、朝倉書店。
- 小出昌弘(1991):「語順面から見た色彩を表す形容詞」『ドイツ文学語学研究』15、学習院大学、127-149。

日本語記述文法研究会編 (2009) : 『現代日本語文法 7』、くろしお出版。

閩谷加奈子・田中江扶 (2013) : 「日英語の形容詞の語順の比較」『信州大学教育学部研究論集』 6号、217-230。

森田富美子 (1994) : 「連接された形容詞の語順」『東海大学紀要』 14号、31-48。

[欧文]

Dudenredaktion (2009): *Die Grammatik*. 8. Auflage. Dudenverlag.

Stang, Christian (2014): *Erste Hilfe Komma, Punkt & Co*. Dudenverlag.